



ブラジルから

こんにちは Boa-tarde ボア ターレ

サンパウロ日本人学校
2017.9.17
No.21



● ウルグンの実 ●

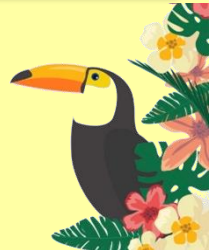
日本では「ベニノキ」とよばれているウルグン。現在は主にインドで栽培されていますが、もとは中南米が原産です。アマゾンの先住民インディオが昔から使っていた植物で、赤い色素をボディペインティングに利用していたそうです。



↑ 写真： Museu Paranaense



空に向かってたくさん
の実をつける、
ウルグンの木



▶トゲトゲした実を割ると、赤い種子がたくさん入っています。種子は、べとべとした赤いものでおわれています。

▶学校では、種子をクレヨンのようにして、絵をかいてみました。



赤い種子には香りも味もないため、食品に色をつける着色料として使われています。

*日本ではアナー色素という名で、ハムやソーセージ、チーズなどを赤色や黄色に着色するのに用いられることがあります。

- ▶スーパーでは、粉に
 - ▶種子を油でいためると
 - ▶料理に加えて…
 - ▶ブラジル料理、ムケッカのできあがり！
- したものも売っています。色が出てきます。

